

**製品名: CD98 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08493**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	69kDa

**抗原情報**

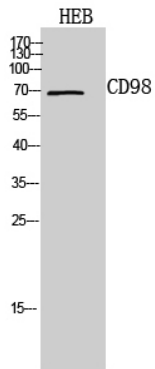
遺伝子名	SLC3A2
別名	SLC3A2; MDU1; 4F2 cell-surface antigen heavy chain; 4F2hc; 4F2 heavy chain antigen; Lymphocyte activation antigen 4F2 large subunit; CD98
遺伝子 ID	6520.0
SwissProt ID	P08195
免疫原	抗血清はヒト SLC3A2 の C 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 491-540

**背景**

この遺伝子は溶質輸送体ファミリーに属し、細胞表面の膜貫通タンパク質をコードします。このタンパク質はヘテロ二量体の重鎖として存在し、ジスルフィド結合を介して複数の軽鎖のいずれかと共有結合しています。コードされているトランスポーターは、細胞内カルシウム濃度の調節に関与し、L型アミノ酸を輸送します。異なるアイソフォームをコードする、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが特徴付けられています。[RefSeq 提供、2010年11月]、機能: 軽鎖アミノ酸トランスポーターの機能に必須。フェニルアラニン、チロシン、ロイシン、アルギニン、トリプトファンなどの大きな中性アミノ酸の、ナトリウム非依存性の高親和性輸送に関与します。LAT1 および LAT2 の細胞膜への誘導と標的化に関与します。SLC7A6 または SLC7A7 と結合すると、アルギニン/グルタミン交換輸送体として機能し、アミノ酸輸送の対向輸送機構に従って、細胞外アミノ酸と交換するアルギニンの放出に影響を与えます。L-アルギニンの輸送を介して、ヒト臍帯静脈内皮細胞 (HUVEC) における一酸化窒素合成に関与します。正常細胞および腫瘍細胞の増殖に必要です。SLC7A5/LAT1 と結合すると、血液脳関門を通過する L-DOPA の輸送、胎盤などの組織における細胞膜を通過する甲状腺ホルモンのトリヨードチロニン (T3) とチロキシン (T4) の輸送にも関与します。L-システインまたは D,L-ホモシステイン複合体として投与されるとメチル水銀 (MeHg) の取り込みに関与し、金属イオンの恒常性および毒性において役割を果たします。SLC7A5 または SLC7A8 と結合すると、L-ニトロソシステイン (L-CNSO) の立体選択的膜輸送を介して、低分子量ニトロソチオール細胞活性に関与する。ICAM1 と共に、細胞内シグナルを生成・伝達することで、分極した腸管細胞における LAT2 の輸送活性を制御する。SLC7A5 と結合すると、循環血中から網膜内血液網膜関門を通過して網膜へ L-ロイシンを輸送する上で重要な役割を果たす。誘導: PHA 刺激後、安静時の末梢血 T リンパ球において発現が誘導される。分裂刺激を受けた線維芽細胞において、DNA 合成が最大となる時期に発現が増加する。単核細胞栄養芽細胞様絨毛癌細胞におけるロイシンの発現および取り込みは、PMA およびカルシウムイオノフォアの併用処理により刺激される。質量分析: PubMed: 11840567, その他: Na(+)存在下では、ロイシン濃度の上昇によりアルギニンの取り込みが阻害される。類似性: SLC3A トランスポーターファミリーに属します。細胞内局在: 質量分析により、ステージ I からステージ IV のメラノソーム分画で同定されました。SLC7A5 または SLC7A8 と関連する場合、細胞膜に局在します。胎盤頂端膜に局在します。細胞間接着部位に選択的に局在します (類似性による)。腎臓近位尿管および小腸上皮の基底外側膜で SLC7A8/LAT2 と共局在します。脳毛細血管内皮細胞の管腔側および反管腔側の膜の両方に発現しています。サブユニット: グリコシル化重鎖と非グリコシル化軽鎖のジスルフィド結合ヘテロ二量体 (SLC7A5、SLC7A6、SLC7A7、SLC7A8、SLC7A10、または SLCA7A11)。カドヘリンと共局在します (類似性による)。FAM57A/CT120 および ICAM1 と相互作用します。β-1 インテグリン (α-2/β-1、α-3/β-1、α-5/β-1、および α-6/β-1) と構成的かつ特異的に会合しますが、α-4/β-1 とは最小限にしか会合しません。組織特異性: 検査したすべての組織で普遍的に発現し、腎臓、胎盤、精巣で最高レベルが検出され、胸腺で最低レベルが検出されました。妊娠中、胎盤における発現は、妊娠満期の方が中期よりも有意に強かった。HUVECS で発現し、休止期末梢血 T リンパ球および静止期線維芽細胞にも低レベルで発現している。また、胎児肝臓および原発性アストロサイトーシス神経膠腫のアストロサイトーシス突起にも発現している。網膜内皮細胞および腸管上皮細胞株 Caco2-BBE でも発現している。

## 研究分野

## 画像データ



CD98 ポリクローナル抗体を用いた HEB 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。